

アイヌの装いとハレの日の着物 — 国立アイヌ民族博物館の開館によせて

Ainu attire Kimono for Halle Day: For the opening of the National Ainu Museum

2021年6月26日(土) – 8月9日(月・休)



①《木綿衣(チウカウカブ)》 19世紀 東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives

国立アイヌ民族博物館は2020年7月に北海道白老町に開館し、今年1周年を迎えます。本展覧会は同館の開館を記念し、アイヌの服飾品の展示を通じてアイヌ民族の服飾文化を2章構成で紹介いたします。

第1章では樹皮衣(アットウシ)、草皮衣といった着物によって、その素材の多様性を明らかにするとともに、ルウンペ(色裂置文衣)、カパラミプ(白布切抜文衣)、チカルカルペ(黒裂置紋木綿衣)などによるさまざまな刺繍で飾られた木綿衣を通じてアイヌの意匠の豊かさに触れます。続く第2章で紹介されるルウンペは噴火湾沿岸の地域に特徴的なハレの日の着物のひとつで、絹や木綿などの布を切り伏せ、華やかで独自の文様が施されています。その装飾の布は時代を追うにつれ、絹が減り、ウールや様々な木綿の染め布が多く使われるようになり、刺繍糸も絹や樹皮や草皮から木綿への変化がみられます。また、文様を構成する布はバリエーションに富み、貴重な染織資料としてアイヌの衣服の中にもみることができます。

本展が今後も多くの方々にアイヌ民族の文化への関心を高めていただく契機となりますよう、アイヌ民族の服飾文化を51点の作品によって紹介いたします。

◇展覧会概要

第1章 アイヌの装い

アイヌの衣服の素材には、古くは獣皮や鳥皮、樹皮、木綿などが使われました。今回の展示では、樹皮衣(アットゥシ)と木綿衣を中心に過去から現在に伝えられた技術を紹介します。

アイヌ文様が、美しいといわれる理由は、配色や文様のバランス、技術の高さ、あるいは古い着物ゆへの価値など様々なことが挙げられます。アイヌ文様には、地方差や個人差などがあります。技法の種類は、刺繍だけのもの、テープ状の布で文様を構成するもの、幅広の布を切り抜き文様にするもの、この3種に加えこれらを組み合わせたタイプの着物もあります。アイヌの先祖は、大陸や本州などから交易や労働の対価などで布を入手し、文様部分に木綿や絹などを取り入れデザインしました。文様に使う布は、「これでなくてはいいない」という決まりがないといわれます。赤い木綿や絹を使ったり、手ぬぐいの模様をアイヌ文様の中に利用したりすることでアクセントを入れます。アイヌ文様の刺繍は、仕立てた着物の上に生地を縫い付けていく技法で、縫い目も文様の一部になります。現在では今の素材にあうように縫い方を工夫し、伝統的な技術を守りながらも今の時代にあったアイヌ文様の美しさを作り出しています。



② 《厚司衣装(アットゥシ)》日本民藝館蔵 撮影:村林千賀子



③ 《木綿衣(ルウンペ)》(複製作品) 山崎シマ子作 国立アイヌ民族博物館蔵

この反物は、経糸に樹皮と白や藍染めなどの木綿糸を使うことで縞模様を構成している。テープ状の木綿の布を縫い付けて文様を作っているが、その布を進行方向と違う方向に曲げる際、新しく布を縫い付けて曲げるという方法を全ての箇所で行っている。

旧(一財)アイヌ民族博物館(平成30年3月閉館)において、平成23年度に実施したアイヌ文化伝統的の衣服製作伝承事業で複製された。このような事業を通じてアイヌ伝統衣服文化の保存と継承が図られている。

第2章 ハレの日の着物

ダイナミックかつ繊細なアイヌ文様はアイヌ文化を表現するひとつの象徴といっても過言ではありません。北海道南部の太平洋側にある内浦湾沿岸の有珠・虻田周辺(現在の伊達市、洞爺湖町)でルウンペと呼ばれる木綿の衣服があります。木綿の衣服の中でも比較的古い時代からつくられていたと考えられており、アイヌ語での意味はル(道)ウン(ある、持つ)ペ(もの)。木綿で仕立てられた衣服の上に、テープ状に細長く切り裂いた布を伏せ縫いして、直線や曲線に置いた布の上から刺繍が施されます。その飾りの布素材は絹、苧麻、木綿やウールなど多様です。18世紀から20世紀前半に収集されたルウンペには、模様が絹布で形づくられ、刺繍には絹糸や自生のイラクサなどの植物の糸が使われているものが多くみられます。白や緑などの平絹に紅絹、縮緬、さらに白綿子に刺繍や摺匹田で装飾された、江戸時代中期以降の武家階級の女性の好みであった小袖地を用いているものもあります。絹をふんだんにつかって飾られたこれらの衣服は、かつては輝きに満ちていたことが想像されます。また、木綿にも無地のほか、縞、格子や緋、そして小紋、絞り、中型、更紗やプリントなど多彩な織物、染物があり、中には大陸や本州の貴重な布を見ることができます。多彩な素材を取り入れながら、美しく力強いアイヌ文様が施された衣服からは、アイヌ女性の手縫いの技術と美意識の高さがうかがわれます。



④《色置裂紋木綿衣(ルウンパ)》
早稲田大学會津八一記念博物館蔵



⑤《木綿切伏刺繍衣装(ルウンパ)》
日本民藝館蔵



日本で武将が戦場において鎧の上から着用した袖無しの着物。交易によってアイヌ民族にもたらされ、アイヌの男性が儀式や和人(日本人)との対面の場において威儀を正すために着用した。日本の着物がアイヌの服飾文化に採り入れられた例。

⑥《陣羽織(チンパオリ)》19世紀
東京国立博物館蔵
Image: TNM Image Archives



⑦《首飾(シトキ)》
早稲田大学會津八一記念博物館蔵

◇関連イベント

●記念講演会「五感で学ぶアイヌ文化:ウポポイ国立アイヌ民族博物館の楽しみ方」

講師:佐々木史郎氏(国立アイヌ民族博物館 館長)

日時:6月26日(土)午後2時~(約1時間30分)地下2階ホール

*無料(要入館料) *定員30名(申し込み先着順)*事前申し込みが必要です。「アイヌ展6/26講演会」係まで

●特別講座「アイヌと日本の着物の出会い」

講師:平塚泰三(当館 学芸係長)

日時:7月10日(土)午後2時~(約1時間)地下2階ホール

*無料(要入館料) *定員30名(申し込み先着順) *事前申し込みが必要です。「アイヌ展講座」係まで

●ワークショップ「ウポポイ!アイヌの音楽でみんなで踊ろう!」

講師:居壁 太氏(アイヌ民族の弦楽器・ムックリ奏者、アイヌ文化活動アドバイザー<公益財団法人アイヌ民族文化財団派遣>)

日時:7月18日(日)午後2時~(約1時間)地下2階ホール

*無料(要入館料) *定員12名(申し込み先着順)*事前申し込みが必要です。「アイヌ展ワークショップ」係まで

●特別講演会「アイヌの華やかな装い—コソソテと小袖」

講師:宮地 鼓氏(国立アイヌ民族博物館 研究員)

日時:8月9日(月・休)午後2時~(約1時間30分)地下2階ホール

*無料(要入館料) *定員30名(申し込み先着順)*事前申し込みが必要です。「アイヌ展8/9講演会」係まで

講演会・講座・ワークショップ 申込方法

*往復はがき、またはメール (event@shoto-museum.jp) にて〒・住所・氏名・年齢・日中連絡のつく電話番号・希望イベント名をご記入ください。各イベントごと、1通につき1名まで申込可能。

*迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に@shoto-museum.jp ドメインより受信できるようにしてください。

- 学芸員によるギャラリートーク 7月2日(金)、24日(土)、8月1日(日) 各日午後2時~ 約30分
*無料(要入館料)*事前予約の必要はありません

◆開催概要

展覧会名	アイヌの装いとハレの日の着物ー国立アイヌ民族博物館の開館によせて Ainu attire Kimono for Halle Day: For the opening of the National Ainu Museum
会期	2021年6月26日(土)ー 8月9日(月・祝)
開館時間	午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
入館料	一般700円(560円)大学生560円(440円)、高校生・60歳以上350円(280円)、 小中学生100円(80円) *()内は渋谷区民の入館料 *土・日曜日、祝休日及び夏休み期間は小中学生無料 *毎週金曜日は渋谷区民無料 *障がい者及び付添の方1名は無料
休館日	月曜日(ただし、8月9日は開館)
主催	渋谷区立松濤美術館
特別協力	国立アイヌ民族博物館
会場	渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話: 03-3465-9421 https://shoto-museum.jp

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展覧会の会期・開館時間・イベント等が変更・中止となることもございます。
最新情報は当館HPまたはSNS等でご確認いただきますようお願いいたします。
※本展会期中、毎週金曜日の夜間開館および館内建築ツアーは中止いたします。

交通案内

- 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
 - JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分
- ※駐車場はございません。

◆次回展のご案内◆

デミタスカップの愉しみ

2021年 8月24日(火)～10月10日(日)



報道関係のお問い合わせ

広報担当: 西・木原(pr-sma@shoto-museum.jp)
電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

展覧会担当: 平塚(hiratsuka@shoto-museum.jp)

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。
- * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 画像のご利用後、データは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- * 掲載後、見本誌をご送付いたしますようお願いいたします。